

〔夏季例会合宿調査報告〕

御座山の植物観察会

池田登志男

第146回例会は平成6年7月29日～31日の3日間、南佐久郡北相木村の御座山(2,112m)とその周辺の三滝、長者の森一帯で、神奈川県立博物館の高橋秀男先生を講師にお願いして、佐久教育会植物委員会の臨地調査と合同で行った。

参加者は講師の高橋秀男先生、大塚孝一、小沢正幸、白井幸長、竹花けい子、相馬けい子、宮島吉彦、中山冽、幹事の池田登志男の9名と佐久教育会関係の12名の計21名でした。

第1日目は午後から始め、冬の氷で知られる三滝で行った。駐車場から滝まで急いで歩けば10分ほどの所を十分に時間をかけて植物観察ができた。駐車場の片隅には佐久では珍しいシオジの大木が見られた。滝までに目についた主なものとしては、ホソエカエデ、ミツデカエデ、メグスリノキ、チドリノキ、オオモミジ、ハウチワカエデ、ウラゲエンコウカエデ、オニイタヤ、モトゲイタヤなどのカエデ類、ヒメウツギ、バイカウツギ、スグリ、ハヤザキヒョウタンボク、ミヤママタタビ、アズマヤマアザミ、カツラ、ケヤキ、トチノキ、ミズキ、ウワミズザクラ、サワラ、タラノキ、ヤマツツジ、ヤマアジサイなどの林の中にレンゲショウマ、シャク、ユリワサビ、ヤマブキソウ、ヒメレンゲなどが見られた。夕方になって、2泊することになっている長者の森の宿に入り、標本整理と入浴を済ませてから懇親会をしながら夕食をとり、その後も一つの部屋に集まって北相木村の知人から頂いた地酒を飲みながら遅くまで山や植物の話が続いた。

第2日目は御座山を目指して8時に宿を出て、山頂へ1時過ぎに着くまでの間、植物観察と記録をする。頂上で昼食をとり2時過ぎ下山を始めて宿に戻ったのは5時ごろであった。御座山の登山口から頂上までに見られた主な植物としては次のようなものがあった。

標高1,300m～1,400m あたりでは、サンヨウブシ、ハシバミ、アカソ、エゾヤマカモジ

グサ、ヒメマイヅルソウ、クロカンバなど。1,500m～1,600mあたりではテツカエデ、サワラ、コメツガ、ミヤマアオダモ、ザリコミ、ハリブキ、サラサドウダンなどのほか、佐久ではごく珍しいフジシダの群生も見られた。そのほかシラネウラボ、ホソイノデ、ナガオノキシノブ、ホソバコケシノブ、ミヤマウラボ、マンネンスギ、ウスギオウレン、センジュガンビ、コチャルメルソウ、ズダヤクシュ、タニギキョウ、レンゲショウマなども目につく。山頂から延びる尾根(2,020m)あたりから頂上までの主なものとしては、キンレイカ、タカネママコ、イワカガミ、ミヤマウラボシ、ヤハズヒゴタイ、ヒメシャジン、ヒモカズラ、ウラベニダイモンジソウ、ヤハズハハコ、タカネニガナ、ミヤマウイキョウ、イワインチン、ミヤマトウキ、ヒメスゲ、ミヤマヌカボ、マルバダケブキ、イワノガリヤス、コケモモ、シライヤナギ、クロベ、アズマシャクナゲ、ハクサンシャクナゲ、カラマツ、シラビソ、キタゴヨウ、ウラジロモミ、アカマツなどが見られた。

第3日目は宿舎のある長者の森(北相木村木次原)一帯の観察を午前中に行った。観察できた主なものとしては、木本類では、ハルニレ、オニグルミ、ケハリギリ、イヌブナ、ミズナラ、アオハダ、アズキナシ、オオヤマザクラ、ミヤマキハダ、オオモミジ、ヤエガワカンバ、ミズキ、サワラ、ユモトマユミ、バッコヤナギ、イヌコリヤナギ、サワシバ、オトコヨウゾメ、サワダツ、スズダケ、ケスズ、トウゴクミツバツツジ、オヒョウ、コヨウラク、レンゲツツジ、ヤマツツジ、ツクバゲミ、ヤマブキ、ミヤマニワトコ、ヤドリギなどが見られた。

草本類の主なものでは、エゾムギ、ホドイモ、エゾボウフウ、アズマガヤ、メタカラコウ、ヒナノウスツボ、ケタチツボスミレ、クリンソウ、ミヤマネズミガヤ、ヒロハヌマガヤなどが上げられる。特にヒロハヌマガヤ(イネ科)は全国で長野県だけで稀に分布するとされている珍種で、県下で伊那の大鹿と佐久の相木で確認されている貴重種である。

午前中で3日間の観察を終了してそれぞれ帰途についた。